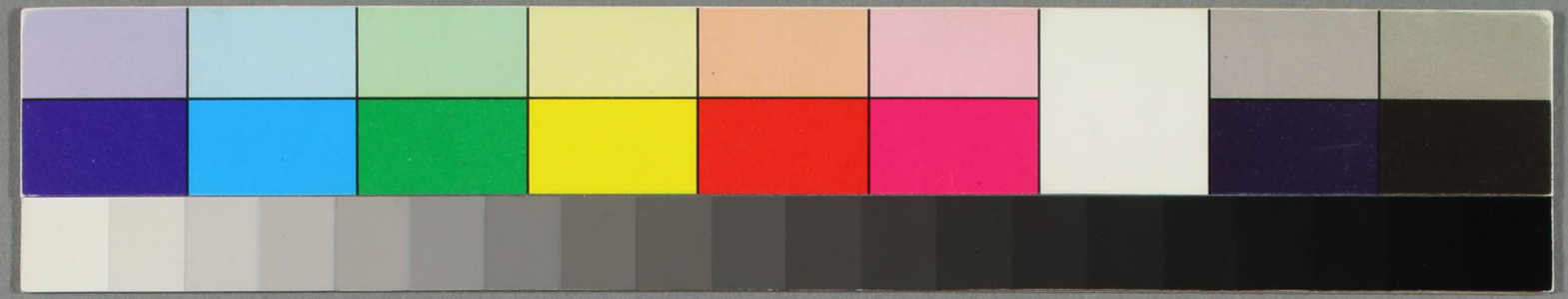
役者評判記

千13
3851
6





特
チ13
3851
6

清のや 人 八 慶文此糸

風月堂記

役者人相鏡

いせ相



つくしてそ
大さう
強そう
えらう
有そう
まつくらやみでもしる
おやせだとくわんのごとし

糸の巻

由男相

芙蓉相

其虹相

五登相



上上一　不作の
上上　ぞめでも
上上　仕初めの
上　大当
上上一　▲実名
上上吉　山村座
上上士　三桝松
上上二　市川友
上上　浜合の
上上　中村吉十郎

嵐雛助　女
中山文蔵　狐
市川権十郎　狸
山村勇吉　狸
三桝松之助　引
市川友蔵　踊
亀谷仲蔵　扇
中村吉十郎　狐

上上　ぞめでくとおでてござる
上上　中村伴蔵
上上　大和屋の
上上　ようの
上上　ハ笹松家
上上　名桐豊松
上上　中村福助
上上　実名
上上吉　▲名桐豊松
上上吉　名桐豊松
上上吉　芳沢國雲
上上　吾妻屋の
上上　にわのまの
上上　山下秀蔵
上上　ぞこなはん

朝ぼらけ
狐
扇
狐
狸
狐
狸
狐
狐
狐

上上　嵐　動若
上上　嵐璃寸　同
上上　山下紫若　同
上上　山下八百若　同
上上吉　山下八百若　同
▲色子ぶし
嵐　金助
山下宗三郎
尾上菊之助
山科松之助
嵐　雪三
嵐本秀松
嵐本菊松
中村二流
中村宗三郎
嵐璃寸
中山流三郎
嵐　雪三
中村宗三郎

大上上吉　市川團蔵
▲熱塞長尾
▲狂言浄瑠璃者之部
京川　二助
京川　松七
中村　宗十郎
並木　五瓶
河竹　新七
▲秩父家系

●わたくしおもてせやまとぢ
一番目三段目作者並木五瓶
二番目世話中村宗十郎
三番目所作並木五瓶
四番目三段目作者河竹新七
五番目所作並木五瓶
六番目世話中村宗十郎
七番目所作並木五瓶

釋到来

寺入帰小説傳奇本入 明治三十四年

今とさうの家がーーの名の文
と家名云に参ーて参方への手紙
まだく ひいさの門内となな
さま家をされませう

● 乃公出て
一世の英れまだく門松家人
去秋郎下く関係主師乃後免於
三年達まて ふ後郎久等も
別れありまして別れ云
二王門 うこのさがさ
十月廿四日より初り御ー坂天
の名のそ乃後入中仮
諸代 邸 万吉文

義務 義務 義務 義務 義務 義務 義務 義務 義務

入村鵜八 村鵜八 村鵜八 村鵜八 村鵜八 村鵜八 村鵜八 村鵜八 村鵜八
市ノ宮 市ノ宮 市ノ宮 市ノ宮 市ノ宮 市ノ宮 市ノ宮 市ノ宮 市ノ宮
谷村 谷村 谷村 谷村 谷村 谷村 谷村 谷村 谷村
小坂ノ 小坂ノ 小坂ノ 小坂ノ 小坂ノ 小坂ノ 小坂ノ 小坂ノ 小坂ノ
約井 約井 約井 約井 約井 約井 約井 約井 約井
山下 山下 山下 山下 山下 山下 山下 山下 山下
権十 権十 権十 権十 権十 権十 権十 権十 権十
鳳村 鳳村 鳳村 鳳村 鳳村 鳳村 鳳村 鳳村 鳳村
三井 三井 三井 三井 三井 三井 三井 三井 三井
山神 山神 山神 山神 山神 山神 山神 山神 山神
鳳村 鳳村 鳳村 鳳村 鳳村 鳳村 鳳村 鳳村 鳳村

教訓雛鑑

● 閑に

又習ひ初めの筆法詩歌の草書十二月候文等の類

一統のうるはしき手本を書き与へ

形ばかりの手本を友とし

延引に及び初めおぼえ

不文字うりごとき

多の稽古事の

宝二月十日より
けいせい暁の縁

大切の一人娘婿柳江より

三月二日より
千金万頃大内縄

世話料理

和四合より
男武み鳥神

市松模様

一谷嫩軍記

五大力恋

市松模様

八月十日より
太平記菊水之巻

九月十八日より
金花山雪曙

吉原細見図

十月十八日より
鬮馬姫

綾合縄張

大ぜい来ていそがしい雑ドやくく

無類▲鳥風小六

所のいくさにて七百七十五人の首

武家義理物語巻之四目録

一 主命を重んじ忠義を励まして名を後代に残す事

一 主君の敵を討ち報恩を尽す事

一 義理を守り忠節

三十三 尾上新七

京四条二ツ君 在言ばなし

上吉 中山文七

上上十七

上上二 ㊐ 嵐 雄助

乃公 初めて舞臺を踏みたるは、
村十吉と改名して、
當座のみ、三年の間よ
舞臺の上にて、
乃公 ちやほやされて、
乃公 ちやほやされて、
乃公 ちやほやされて、
乃公 ちやほやされて、
乃公 ちやほやされて、

上上 ㊑ 中村 芝翫

乃公 當新年興行も、
乃公 ちやほやされて、
乃公 ちやほやされて、
乃公 ちやほやされて、
乃公 ちやほやされて、
乃公 ちやほやされて、

上上 回 市川 左團次

乃公 ちやほやされて、
乃公 ちやほやされて、
乃公 ちやほやされて、
乃公 ちやほやされて、
乃公 ちやほやされて、

上 ㊐ 山村 勇藏

乃公 ちやほやされて、

上上吉 ㊐ 實川 延若

乃公 ちやほやされて、

上上吉 ㊐ 山村 友五郎

乃公 ちやほやされて、

[印]二字成家人に出世して名を
表そうと思ふまでの
[印]ことの
又子供の
[印]に親の家
めがつくまでの
[印]ことをいふ
[印]ことの
八百や
まんまも
[印]
[印]
[印]

上
上
上
上
上

(花) 芳沢門松
(一) 五代目岩井松
(蔵) 山下秀五郎
(桐) 嵐勘兵衛
(岡) 嵐漣之助

上卜 藏 山下
上卜 藏 山下

[illegible]

上上吉 藏 山下八百兵

[illegible]

歌舞伎座 ▲ 大正吉 回 市川團

○ 閏霜月考 觀見世

一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]

一 今川よし也　　坂田熊十郎
　 屋谷久右衛門
一 けいせい　　芳沢いろは
　 娘　さくら
　 さのの内　小玉
一 浅瀬ごぜ八　　三桝源蔵
　 源蔵妻　おいと
一 さぬきのさく　　浅尾仙之丞
　 うすのさく
一 そろせのさく　　中村喜之助
一 引うす弁ざい　　芳沢五郎市
　 河内屋お秋
一 中村おさき　　尾上高麗蔵
　 おさのおもと
一 中乗おまん　　嵐源之丞
　 門中
一 けいせい　　柳之助
　 秋波
一 けいせい　　松本雛
　 秋波おつま

一 げいこ　　芳沢亜雲
一 ものや　　芳沢門四郎
　 ものやの
　 下女おなべ
一 ものや　　浅尾為十郎
　 ものやの
　 下女おいね

寛政七年
卯正月吉日

八文舎
自笑述


大阪

伊勢勘町

勘伊八

其谷相

里環相

奥山相

市紅相



上上十五　中山文二帝
やつーのこぐち　嵐雛助
上上
どこやら訳ルのあのごとく
上上　中山文蔵
丁時の義風のごとく
上上　濱尾奥次帝
いつまでも　濱尾菊十帝
末永き
上上吉　当時上乗名物
▲宝来亭　山村濱右衛門
きびのとの仕向けいたしもつて
▲欲張こく弥
上上吉　山村友右衛門
義のとうめの四ツ過ての
上上十　三枡松次帝
おもうつぼ

上上十五　中山文次帝
ゆくひ中めもおもうつぼ　荻
上上　中村歌右衛門
いうりのまてまち大ごく　雛助
上上　濱尾菊十帝
釈迦の前の三尊仏のごとくに　嵐璃次帝
上上　嵐雛助
いやづかぬ　濱尾菊十帝
上上
改元後ハ末広がりの　抱
上上下　坂田藤十郎
とくとよくぐめいわくぞ　扶
上上　嵐璃次帝　三枡松次帝　中
上上　濱尾菊十帝　坂東志六　中
上上　嵐雛助　濱尾菊十帝　中
上上　中村歌右衛門　嵐雛助　中
上上　嵐雛助　中村歌右衛門　中
上上　嵐璃次帝　三枡松次帝　中

上上吉　山下八百屋　中村座
眞師の風とよく
上上吉　三桝徳治郎　市村座
役廣うつる浪の如き藝
上上吉　嘉祥喜劇
きり狂言
上上吉　荻川すみよし　中村座
ぬれ事うまくやる
上上吉　澤尾勇次郎　市村座
色ごのみ役ぶり分
上上吉　中村芝翫　中村座
おひろ勇みよき
上上　嵐璃寛　中村座
女形の位とよく
上上　荻野八重桐　市村座
こゝろのこゝろ狂ひ
上上　澤川源之助　中村座
まことのこゝろ狂ひ

上上吉　田中金蔵　中村座
上上　荻村浜蔵　市村座
上上　江戸紫喜十郎　中村座
敵役
上上吉　嵐三八　中村座
いつてもかわらず
上上　沢村宗之助　中村座
うまく敵役
上上　江戸紫喜多郎　市村座
ぎやうさの狂ひ
上上　尾上菊五郎　中村座
うまく敵役
上上吉　沢村田之助　市村座
女形のうまさ
極上吉　沢村訥升　中村座
女形のうまさ
上上吉　坂東彦三郎　中村座
世界のうまさ

上上 風俗の志ろく
上上 に次へとこまで
上上 むこのえなど
上上 いつでもお役に
上上 嵐
上上 柳
上上 芳沢
上上 已初よりの
上上 三桝
上上 ゟ
上上 殊ひて
上上 ▲二役こ
上上 市川團
上上 初文の風と
上上 市川
上上 市山
上上 ゟ
上上 内でゟ
上上 嵐
上上 市川團
上上 上の役こ

於てもへ元祖の名を
▲中村座 ▲市村座 ▲森田座
一江村座帝 一市村座帝 一
一芳沢松帝 一芳沢松帝 一
一市山万次帝 一市山万次帝 一
一坂川松助帝 一坂川松助帝 一
一関善三郎 一関善三郎 一
一森嘉兵松 一森嘉兵松 一
一森川多松 一森川多松 一
一中村芳兵 一中村芳兵 一
▲市村座 ▲森田座
一市山今藤 一芳沢武帝 一
一芳沢鶴帝 一市山今藤 一
一市山文治帝 一芳沢鶴帝 一
一坂本岩帝 一市山文治帝 一
一森川出松 一坂本岩帝 一
▲森田座 一森川出松 一
一芳沢武帝 一
一市山今藤 一
一芳沢鶴帝 一
一市山文治帝 一
一坂本岩帝 一
一森川出松 一
▲森田座 ▲中村座 ▲市村座
一芳沢武帝 一芳沢鶴帝 一芳沢鶴帝 一
一市山今藤 一市山文治帝 一市山文治帝 一
一芳沢鶴帝 一坂本岩帝 一坂本岩帝 一
一市山文治帝 一森川出松 一森川出松 一
一坂本岩帝 一
一森川出松 一

▲嵐小六 ▲嵐雛助 ▲嵐音八
一嵐源次郎 一嵐源次郎 一嵐源次郎 一
一嵐吉三郎 一嵐吉三郎 一嵐吉三郎 一
一嵐雛助 一嵐雛助 一嵐雛助 一
一嵐音八 一嵐音八 一嵐音八 一
一嵐小六 一嵐小六 一嵐小六 一

○ 一すぢやうの
一手に限ること和のそれと違ひ二代
目小川笑三郎の芸風の如きも
きやうさいの別名を
寛政二年庚戌八月十六日
二代目 鶴屋 喜右衛門 俗名小川土左衛門
行年 廿五才
一寺八私物語 安永四乙未 歿 法名 光元

● 三ヶ津 芸者 評判記 八文舎 自笑
発兌 一名 風流一覧 全部二巻
右ハ二ヶ津二のうち
芸者を撰ぬきて
名ある
ものゝ
名 ならびに
評判を
記せり
絵ハ
略せり

役者人相競

[文久二] 壬戌 春 [三月]
[江戸] 市村座 [狂言] 忠臣蔵 [七段目]
[由良之助] 中の芝翫 [大星] 二代目 [市川] 団十郎
[力弥] 市川 小団次 [おかる] 嵐 吉三郎
[平右衛門] 市川 門之助 [一力] 亭主 [源六] 市村 家橘
[仲居] 中の芝翫 [おせつ] 二代目 [市川] 団十郎
[おかる] 嵐 吉三郎 [平右衛門] 市川 門之助
[源六] 市村 家橘 [一力] 亭主 [仲居] 市川 小団次

一妻夜泣ク
一妻義経ヲ
一姫おろく
一当帝武家ヲ
一子ども分
一村宮男ヲ
一妻坂東ヘ

嵐雪
芥川
嵐雪
義仲
義仲
嵐雪
嵐雪
嵐雪
嵐雪

一源氏ヲ
一妻義経ヲ
一ころり
一ころり
一奴ら文平
一義経ハ
一奴 伊勢
一奴 弥兵衛

少将
浅尾
嵐雪
嵐雪
嵐雪
嵐雪
嵐雪
嵐雪
嵐雪

太左衛門 嵐三六 ● 故人之頌

木斑

大正十二年 回 市川圀義 埼玉

▲立候補 邪

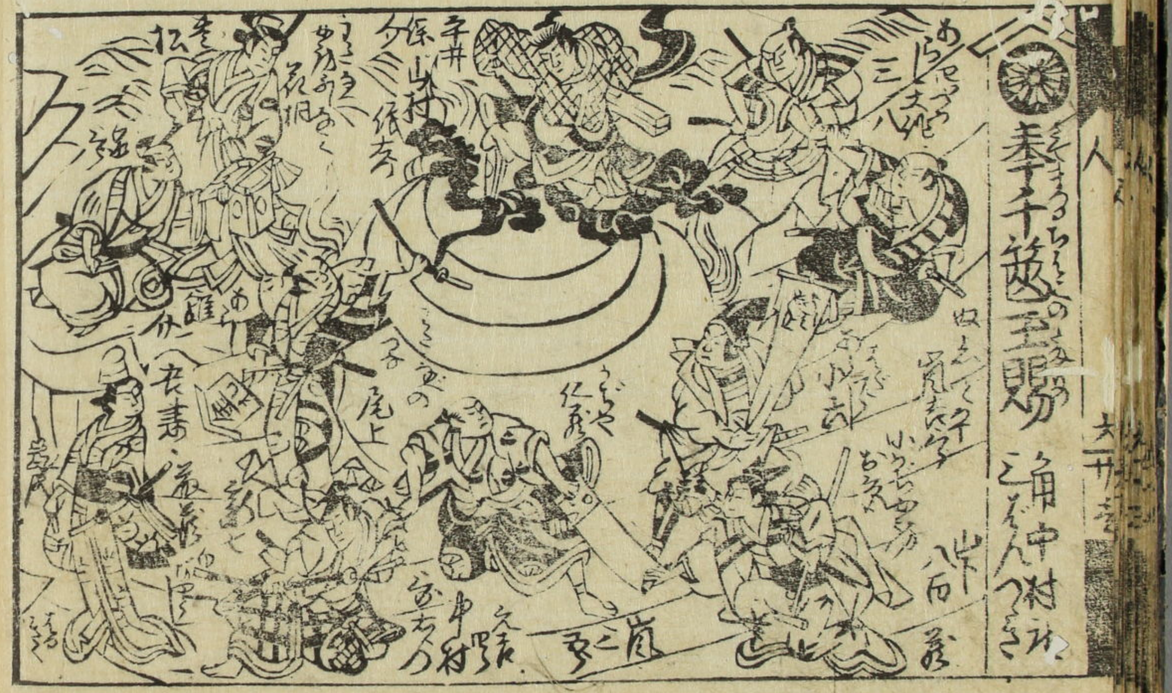
大正十二年 尾上新九郎 埼玉

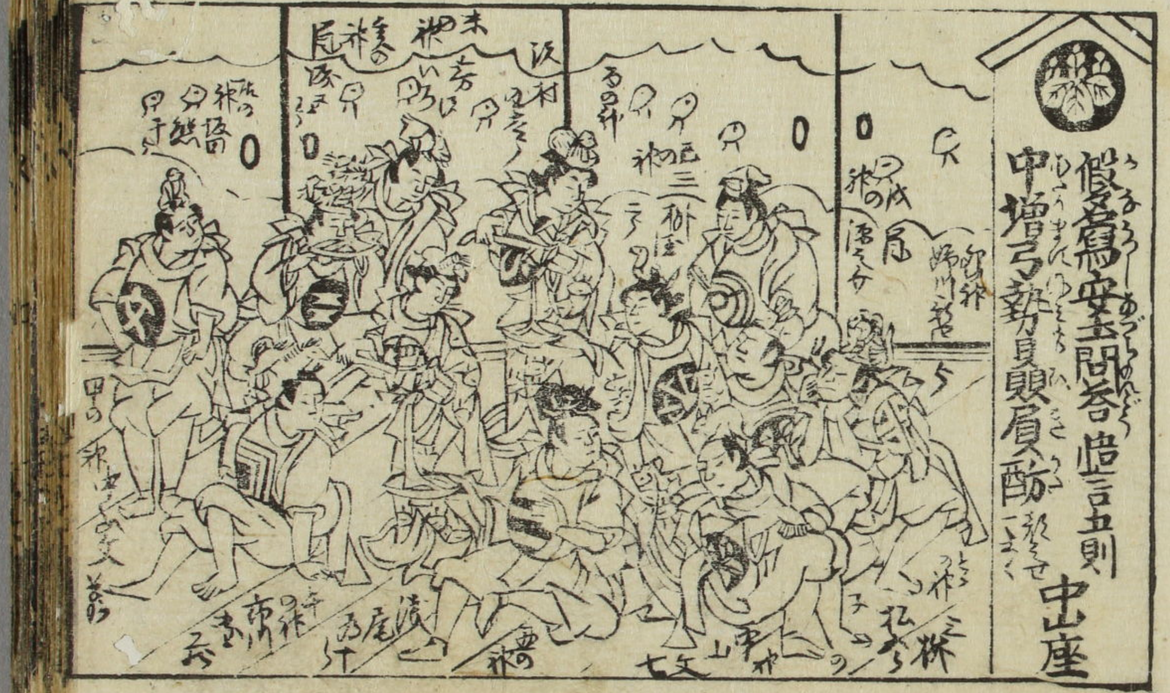
上上吉 ㊥ 中吉 文七 時光

上古 劍 嵐

[illegible] 天皇 [illegible] 御宇 [illegible] 年 [illegible] 月 [illegible] 日 [illegible] 崩 [illegible] 年 [illegible] 歳

上上 ㊐ 嵐雄別吟 中村氏





假名篇安五問答造言五則
中増弓勢見顕眉酌 忠座

大上吉 三 淺草觀音

大吉 往古に次大上吉二吉分ち次吉以下中吉末吉凶と
あつて凶まで十二段に分ちてござる實に對句の
ごとく善惡正邪を分ち大上吉
家業を勤め善事を施し
もの欲心なく
ごとき者ゆゑ大上吉と二吉
吉 ゆゑ大上吉の
位なり 吉川 ござる
ござる 吉兆 二段
我が善の
上吉 位の
小吉 出
ござる 吉兆 出
ござる 吉兆 出
ござる 吉兆

▲實盛と云ふ武者

▲ 歌及び発句の事

上上士　三柳社大明神　はやく

上上士　中山文大明神　はやく

上上　中村紋右衛門　はやく

上上 三 佐尾五郎 宇治

上上 二 嵐城之助 宇治

上上 一 坂田熊十郎 宇治

見立番附の関取の名

上上 三 嵐 三八 木挽

上上 二 佐尾五郎 宇治

上上 一 坂田熊十郎 宇治

▲頭取之部

上上　㊂　青地源蔵殿　中村兵
上上　㊁　松平紀伊守殿　中村兵

▲若年寄之部

極上上吉　㊀　酒井雅楽頭殿　中井

いさ我かこの君子陵谷ノ変ヲ
の庵ちうと[て]よ[ト]詠もむ
歌でさうの歌ひ[ト]
ニうが我の本有[ト]
とよ[ト]ど[ト]て[ル]て[ル]
安[ト]ま[ト]こ[ト]
系[ト]ら[ト]
時[ト]の[ト]ご[ト]
[ト]ら[ト]
[ト]
[ト]
[ト]
[ト]
[ト]

上上吉 ㊇ 山下八百彦 中村座

[ヒイキ]このびいきうれしくぞんじ奉ります

[ト]
[ト]
[ト]
[ト]
[ト]

上上十回 ㊀ 吉書屋義兵衛 中村九

元祿 ㊀ 芝居の座元。こく上手。ちと、かりこわのだぜよ 中村 去年出雲の阿国の狂言にて大当りをとりさて其後は大当りもとらず 中村 ちとかりこわのだぜよ 中村 去年出雲の阿国の狂言にて大当りをとりさて其後は大当りもとらず 中村 ちとかりこわのだぜよ 中村 去年出雲の阿国の狂言にて大当りをとりさて其後は大当りもとらず

上上十回 ㊁ 荻川友吉 中村九

㊀ 芝居の座元。こく上手。ちと、かりこわのだぜよ 中村 去年出雲の阿国の狂言にて大当りをとりさて其後は大当りもとらず 中村 ちとかりこわのだぜよ 中村 去年出雲の阿国の狂言にて大当りをとりさて其後は大当りもとらず

上上十回 ㊂ 浅尾仙之助 中村

㊀ 芝居の座元。こく上手。ちと、かりこわのだぜよ 中村 去年出雲の阿国の狂言にて大当りをとりさて其後は大当りもとらず 中村 ちとかりこわのだぜよ 中村 去年出雲の阿国の狂言にて大当りをとりさて其後は大当りもとらず

上上 中村宗十郎
上上 嵐三右衛門
上上 嵐雛助
上上 嵐音八
上上 嵐吉三郎
上上 嵐冠十郎
上上 嵐猿之助
上上 嵐小六
上上 嵐三五郎
上上 嵐松之助

上上　嵐雪　中村
上上　梯子ころび松　中宗
上上　十時　中村座
図　中入へつゞく引幕
上上　見立三番叟　中村座
上上　松の内曽我松　中宗
上上　おさな子の手ならひ
上上　おさな子の手ならひ
上上　おさな子の手ならひ

▲ 番附之部

上上 ◎ 市川團十郎 座元
上上 ◎ 尾上松助 中村座
上上 ◎ 坂東三津五郎 中村座

▲ 惣巻軸

大受 大幸福二三日でのさばる
大受 ◎ 大入繁昌二三日でのさばる
大受 ◎ 大入繁昌二三日でのさばる
大受 ◎ 大入繁昌

寛政七年
卯正月吉日

作者 八文舎自笑

校考人扣绫

見野誠八郎屋

風月堂記

役者人相鏡

里虹相



白猿相

杜若相

路考相

我童相



上上士回 阪東三蔵命 於大阪東洋館 ヤるかるけまで大阪ニ死和尚
上士 山科定吉命 於大阪東洋館
上 市川演芸命 於大阪東洋館
上 尾上雷助 相丸 多賞
上 中村福太郎命 相丸 多賞
上 市川源之助命 相丸 勢発
上 汉村春夫命 相丸 勢発
上 荻おもと命 相丸 勢発
上 坂田弥平命 多賞発
上 市川寿美 相丸 勢発
上 阪東三木蔵 相丸 勢発
上 大谷門蔵 相丸 勢発
上 市川升次命 相丸 勢発
上 ▲世の花三幅対 相丸 多賞発
上 回左 阪東竹三郎 相丸 多賞発
和らくこかまの前うる神代紀

上上吉 中 市川團十命 相丸
芸ハ日の表ニ至て発歌迄数の外うみ筋
上上吉 右 市川團蔵命 相丸
又命の役如ハ前のうみ筋

上 小波川宝命 於大阪東洋館
上 市川寿美蔵 於大阪東洋館
上 大谷友右衛門 於大阪東洋館
上 阪東家橘 於大阪東洋館
上 阪東秀調 於大阪東洋館
上 阪東市蔵 於大阪東洋館
上 山下小太郎 於大阪東洋館
上 筒井東蔵 於大阪東洋館
上 阪東三八 於大阪東洋館
上 市川寿美八 於大阪東洋館
上 中村福太郎 於大阪東洋館
上 市村金十 於大阪東洋館
上 山科定七 於大阪東洋館
上 大谷友右衛門 於大阪東洋館

上 市川寿美蔵 相丸
大谷友右衛門 相丸
上 大谷友右衛門 相丸
中村福太郎 相丸
上 中村福太郎 相丸
さのハ前ニ
上 阪東秀調 相丸
阪東市蔵 相丸
上 阪東市蔵 相丸
山下小太郎 相丸
上 山下小太郎 相丸
筒井東蔵 相丸
上 筒井東蔵 相丸
阪東三八 相丸
上 阪東三八 相丸
市川寿美八 相丸
上 市川寿美八 相丸
中村福太郎 相丸
上 中村福太郎 相丸
市村金十 相丸
上 市村金十 相丸
山科定七 相丸
上 山科定七 相丸
大谷友右衛門 相丸
上 大谷友右衛門 相丸
阪東家橘 相丸

上上 せ川亜蔵 江戸 上上 坂本助蔵 江戸
上上 尾上寿蔵 江戸 上上 市川和蔵 江戸
上 市川乃蔵 江戸 上上 沢村宗蔵 江戸
上上 中村鶴蔵 京都
上上吉 大谷広右衛門 京都
上上吉 嵐璃寛 京都
上上吉 中村仲蔵 京都
上上吉 沢村源之亟 京都
上上吉 坂田半五郎 京都
上上吉 片岡仁左衛門 京都
上上吉 嵐雛助 京都
上上吉 市川門之助 京都
上上吉 市川高麗蔵 京都
上上吉 松本幸四郎 京都
上上吉 沢村宗十郎 京都
上上吉 中村伝九郎 京都
上上吉 坂田市蔵 京都
上上吉 市川仙蔵 京都
上上吉 嵐龍蔵 京都
上上吉 尾上松助 京都
上上吉 大谷友右衛門 京都
上上吉 坂東彦三郎 京都
上上吉 中村歌右衛門 京都
上上吉 松本錦升 京都
上上吉 沢村田之助 京都
上上吉 中村福助 京都
上上吉 坂田藤十郎 京都
上上吉 市川団十郎 京都
上上吉 松本幸四郎 京都
上上吉 沢村訥升 京都
上上吉 中村芝翫 京都
上上吉 坂東三津五郎 京都
上上吉 市川高麗蔵

上上 大和山の名 於 打 ※
上上 薬師堂の名 於 打 ※
上上 吾妻の名 於 打 ※
上上 尾上寺の名 於 打 ※
上上 中村村の名 於 打 ※
上上 松平越中守の名 於 打 ※
上上吉 市川義兵衛 ※
まえのかりこもそこそこの取肢筋

上上 坂東三郎 於 打 ※
上上 嵐三八 於 打 ※
上上 坂東村蔵 於 打 ※
上上 さの川善蔵 於 打 ※
上上 大谷広右衛門 打 ※
上上 中沢弥六 於 打 ※

上上吉 ▲乃布欲く 於 ※
永あのうえの二風と名別筋

上上 坂東三郎 於 打 ※
上上 坂田大次 打 ※
上上 坂田吉蔵 打 ※
上上 嵐富之助 打 ※
上上 嵐亜善 打 ※

上上 坂東三郎 於 ※
上上 ▲沢あこ弟 於 ※
沢村宗之助
坂東三郎
中村徳次郎
山中仙平

上上 ▲義女敵こ悪 於 ※
潔川翁
三国屋三助
小松川常吉

上上 ▲義女敵こ悪 於 ※
潔川翁
三国屋三助
小松川常吉

上上 坂東三郎 於 ※
上上 ▲沢あこ弟 於 ※
沢村宗之助
坂東三郎
中村徳次郎
山中仙平

極上吉 ▲義女敵こ悪 於 ※
潔川翁
三国屋三助
小松川常吉

至上吉 小松川常吉 於 ※
仁政ハさそやうなに筋

上上吉 市川義兵衛 打 ※
あのこそやうなもの用あつき神筋

上上吉 中村理惣 於 ※
浅野内匠頭の家来

梯子の三人前 打 ※

上上吉　住吉神社　於社
芙蓉形の石柱にて高さ一丈ばかりもあるべし　文政
上上吉　岩井志貴神　文政
上上吉　隠れく住吉神社　於社
瀬川氏子　文政
上上吉　松が峯三神　於社
岩井峯三神　文政
上上吉　山下万峯　於社
瀬川雄次神　於社
上上吉　山下民くみ　和名
中村冨盛　和名
上上吉　松が峯三神　文政

上 設樂源蔵 上 市川三升 上 市川八百蔵 上 市川左升

上 尾上菊五郎 上 市川八百蔵 上 市川左升

上 尾上菊之助

極上上吉 ▲惣巻 山下金作 初代

不出藝 上上吉 ▲ 三文字屋金八 都伊織 座本 若女形

○殺者位置委同之次第

漢訳に初に第七の次第上上又は上中上の人殺と云うことを上上吉以下の位と定めたるぞ上吉以下の位と定めたるぞ上吉以下の位と定めたるぞ

▲惣座頭
極上大無類 市川鰕蔵 打先
[illegible]すれば有やうに見えて
[illegible]
寛政の氏神と迄称ゑ
[illegible]
両徳三年の萬民
大福徳の相ある
[illegible]
の出船をまつ
[illegible]
人の気もあり
世のやうに栄ゆる。



[illegible]
[illegible]
[illegible]

極上上吉 松竹亀鶴

真言宗

真言宗の沿革

真言宗は、弘法大師空海を開祖とする日本仏教の一宗派である。空海は唐に渡って青龍寺の恵果和尚から密教の奥義を伝授され、帰国後、高野山に金剛峯寺を建立して真言宗を開いた。

真言宗の教義は、大日如来を本尊とし、即身成仏を説く。即身成仏とは、この身このままで仏になることをいう。

真言宗の教義

真言宗では、大日如来の三密加持によって、行者と仏とが一体となることを目指す。三密とは、身密・口密・意密のことである。

身密とは、印を結ぶことをいう。口密とは、真言を唱えることをいう。意密とは、本尊を観想することをいう。

真言宗の宗派

真言宗には、古義真言宗と新義真言宗がある。古義真言宗は、空海の教えをそのまま伝えるものであり、新義真言宗は、後世に改革を加えたものである。

古義真言宗には、高野山真言宗、東寺真言宗、大覚寺真言宗、善通寺真言宗などがある。

新義真言宗には、智山派、豊山派、醍醐派、山階派などがある。

真言宗の寺院

真言宗の寺院は、全国に約一万五千ヶ寺ある。

高野山金剛峯寺は、真言宗の総本山である。

東寺は、京都にある真言宗の寺院で、五重塔が有名である。

真言宗の行事

真言宗では、年間を通じて様々な行事が行われる。

正月には、修正会が行われる。

二月には、涅槃会が行われる。

三月には、春の彼岸会が行われる。

四月には、灌仏会が行われる。

五月には、端午の節句が行われる。

六月には、夏の土用が行われる。

七月には、盂蘭盆会が行われる。

八月には、秋の彼岸会が行われる。

九月には、重陽の節句が行われる。

十月には、秋の土用が行われる。

十一月には、冬至が行われる。

十二月には、歳末が行われる。

真言宗の経典

真言宗の経典には、大日経、金剛頂経、蘇悉地経などがある。

大日経は、大日如来が説いた経典であり、胎蔵界曼荼羅の根拠となる。

金剛頂経は、大日如来が説いた経典であり、金剛界曼荼羅の根拠となる。

蘇悉地経は、大日如来が説いた経典であり、事相の根拠となる。

真言宗の曼荼羅

曼荼羅とは、仏の悟りの境地を図に表したものである。

胎蔵界曼荼羅は、大日如来の慈悲の働きを表す。

金剛界曼荼羅は、大日如来の智慧の働きを表す。

真言宗の法具

真言宗では、様々な法具を用いる。

金剛杵は、煩悩を打ち砕く智慧の象徴である。

金剛鈴は、仏の教えを広く伝える象徴である。

真言宗の歴史

空海は、七八四年に讃岐国に生まれた。

空海は、八〇四年に遣唐使として唐に渡った。

空海は、八〇六年に帰国した。

空海は、八一六年に高野山に金剛峯寺を建立した。

空海は、八三五年に入定した。

真言宗の現在

現在、真言宗の信者は、約一千万人である。

真言宗の僧侶は、約一万人である。

真言宗の寺院は、約一万五千ヶ寺である。

真言宗の課題

真言宗の課題は、後継者の育成である。

真言宗の課題は、檀家の減少である。

真言宗の課題は、寺院の維持である。

真言宗の展望

真言宗の展望は、明るいとは言えない。

しかし、真言宗の教えは、現代人にも必要とされている。

真言宗は、これからも日本仏教の一翼を担っていくであろう。

大吉回 市川八百蔵

（十月狂言）

（初日）ござりまする（二日目）ござりまする（三日目）ござりまする（四日目）ござりまする（五日目）ござりまする（六日目）ござりまする（七日目）ござりまする（八日目）ござりまする（九日目）ござりまする（十日目）ござりまする

元祖
○沢村宗十郎 俳名 中村乃勢

元祖
○江戸役者紋尽信濃国

幸吉 幸兵衛 宝暦十二年 今の幸兵衛 中村九二郎

九代目 市村羽左衛門 明和元年 市村亀蔵 明和八年 市村家橘 明和八年

古 中村伝九郎 天保七年 大伝 明治四年 沢村宗十郎 天保七年 中村九郎

一 市川高麗蔵 寛政六年 新九郎

又百 両作 幽霊 実は数の根津 実は清右衛門 又四郎 又四郎 又四郎

ありのとわたりの面 松大 おもかげ

又百 さゝら道 さゝら道 ぞろぞろ 道連 道連 又四郎 又四郎 又四郎

社 社 社

上上吉

上上士 山科帰一帝 於元
[redacted] 其の漢立派な学者なので
ぶらぶらして居るそうだ


男山御注連石
羽左衛門
四番後
関寺小町
松王丸
四番後


松王姫楠
四番後
市川高麗蔵
尾上松助

上上 吉 回 市川團十郎 初代

上上吉 一番目 曽我の三枚羽子板 初代 市川團十郎 初代

二番目 三十石の浪花八景 二代目 市川團十郎 二代目

三人一座の狂言尽今三幅対の趣向 市川海老蔵 初代

うり売の男あり此者の売物は何にても一つ二つ三つ四つ五つ六つ七つ八つ九つ十と申せば売ります

市川團十郎 初代

売りかけ一つ二つ三つ四つ五つ六つ七つ八つ九つ十と申せば売ります

市川團十郎 二代目

二番目 狂歌師 市川團十郎 二代目

やつこの三人連 市川海老蔵 初代

二人一座の狂言尽今三幅対の趣向 市川團十郎

…ゆるされたまふ…

…ゆるされたまふ…

…ゆるされたまふ…

上上十四回 中村仲兵衛

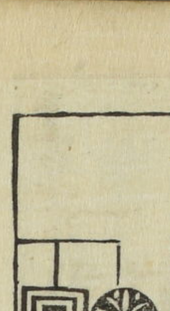
上上十四回 沢村浪之助

上上 大吉度右門

上上十三回 尾上松助

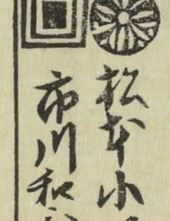
上上十二回

上上十回 ▲敵役之部 中沢根四郎



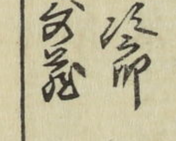
上上　市川宗三郎　名跡

[次首] 兄弟ながら評判の美男にて殊に兄は女形の上手なり



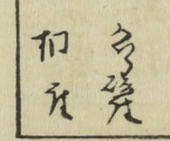
上上　坂東彦三郎　初代

[次首] 名を門弟の中より出し程あって実に名人の名人たる処を残さず演じ終る又余程女形を勉強する事



上上　松本幸四郎　初代

[次首] 父の芸風を受継ぎ殊に柄事に妙を得たり



上上　松本小次郎　名跡

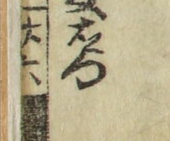
市川和七郎　初代

[次首] 父の芸風を受継ぎ殊に柄事に妙を得たり



上上　中村仲蔵氏養　名跡

[次首] 此連名同様と雖ども各其生涯に於て決して変名せざるの人物なり



上上　坂田半五郎　初代

[次首] 下坂仕立ての人物にて其名を後年迄も伝えたり



上上　岩井半四郎　初代

[次首] 付名ながら其名を後年迄も伝えたり



上上　大和山甚右衛門　初代

乃至上方久市川段名の出語所出しの多く赤村
こ助名え今うつ助名の二人のまた二役と
注よく生れ出よう
上上 ㊇ 萩野宗貞 村元
乃至旦 武文の初うつ回戦現行のまた通を望んで
去おうこうこと
お次名く追くこと乃ち
上上上上上上上
旦 久名の助名七人義 名誉
一 中村芳花 助元
大谷段蔵 助元
松本桃之助 村元
回 市川雷蔵 和元
尾上菊之助 名誉
壹 乃至旦 久名の助名七人義及び芳花
名奴の角子九名名代生活こ桃之助の

こ経過
作例
乃至旦 武芳久名お役
上上 ㊇ 市川染花
上上 ㊇ 大谷徳治 助元
乃至 乃ち
上上 ㊇ 大谷徳治 助元
乃至 乃ち 乃ち
芳花 助元
乃至 乃ち 乃ち
芳花 助元
乃至 乃ち 乃ち
芳花

極上上吉 [illegible] 濱川 [illegible]

[illegible] 二夕の浮名を [illegible] 夫の [illegible] 身を [illegible] 二夕も [illegible] ように [illegible] [illegible]

[illegible] 末い [illegible] [illegible]

[illegible] 小濱川常世 [illegible]

[illegible] [illegible] [illegible] [

上上吉　中村の一ぬ　初午

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上 林山三人帥 初段

上上 同 須賀川帥松 教授

上上 岩井義武帥 教授

上上 松本三帥 教授

上上 岩井義三帥 教授

上上 瀬川源三帥 教授

上上 山下万之丞 初段

上上 瀬川雅帥 教授

上上　山下善作　和光

上上　坂本伊助　名張

上上　中村万代　松阪

極上吉　岩井宇吉　名張

▲惣巻　極上上吉　山下金作　和光

寛政七年